

'87

横浜市立大学医学部 *YOKOHAMA CITY UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE*



# 21世紀へと医学・医療の進歩、サイエンスと ヒューマニティーの融合をめざして



## ヨコハマらしい特色をもった 大学として

今日、私達の社会は科学技術の発達と相まって進行する国際化、高齢化、情報化といった新しい変化の流れの中にあります。

こうした変化に対応し、横浜の個性を大切にしながら、活力にあふれ健康で生きがいにあふれた市民生活が暮らせる横浜の創造をめざし、私は、市民の皆さんと一緒に21世紀を展望した総合計画「よこはま21世紀プラン」を策定いたしました。

横浜市立大学においても、変動する社会に対応するとともに、横浜らしい特色を持った大学として発展することを願い、この「よこはま21世紀プラン」のもとで整備充実を図ってまいりました。

その一環として既に実現した木原生物学研究所の設置、総合研究教育棟の建設にひきつづき、移転・整備工事を進めていた医学部校舎が、今日ここに完成いたしました。

この医学部校舎の完成を契機に、市立大学を時代の要請に応える、横浜らしい特色をもった大学として、また、国際性、社会性、創造性豊かな人材養成機関として一層充実させてまいりたいと考えております。

横浜市長 細郷 道一



## 市民の要望に応える メディカルセンターに

この度、横浜市立大学医学部の皆様が30年間待ちこがれていた研究・教育棟が金沢区福浦地区に完成し、これに移転いたしましたことを心から喜び、祝福致します。

医学部における研究活動は、医学の理論とその応用を究明し、市民の健康増進と疾病の予防に役立て、広く人類の福祉に貢献することを究極の目的としています。また、医学教育を行うに当たっては、教育にたずさわる者が自ら日進月歩の研究活動を行うとともに医師としての徳性を涵養し、もって、医学生に医学の基礎知識を十分に会得せしめ、また、医道を実地教育するよう心掛け、卒業教育、生涯教育をも併せ行い、真の意味の医学教育を実施することが大切であります。

新研究・教育棟は近代医学の粋を集め、巨額の費用を投入して作られたものであります。これからは、医学研究、教育の実を充分挙げ、真の意味のメディカルセンターとしての役割を果たすことにより、市民の要望に応えることを強く希望いたします。

横浜市立大学学長 高井 修道



西側から東京湾を望む  
(福浦キャンパス全景と旧校舎(左下))

# 海に臨む自然環境のなか、ゆきとどいた最新の研究教育設備を備えた福浦キャンパス



南側から見た緑豊かなキャンパス風景

## 沿革

- 昭和19年4月 横浜市立医学専門学校設立。横浜十全医院は“横浜市立医学専門学校付属十全病院”となる。
- 昭和22年7月 大学令による横浜医科大学となり、同予科を六浦地区に開設。
- 昭和24年4月 付属十全病院を横浜医科大学病院と改称。
- 昭和27年4月 横浜市立医学専門学校及び横浜医科大学を母体として、医学部を設置。
- 昭和29年4月 横浜医科大学病院を横浜市立大学医学部病院と改称。
- 昭和36年4月 大学院医学研究科（博士課程）を設置。
- 昭和41年4月 医学部の定員を40人から60人に増員。
- 昭和41年4月 「市立高等看護学院」及び「市立准看護学院」を衛生局から横浜市立大学に移管。
- 昭和46年4月 横浜市立高等看護学院及び准看護学院を母体として、横浜市立大学医学部付属高等看護学校創設（第1看護科3年制70人、第2看護科2年制30人）
- 昭和50年4月 高等看護学校第2看護科の定員を30人から50人に増員。
- 昭和62年2月 医学部新校舎完成に伴い福浦地区へ移転。
- 昭和62年4月 高等看護学校第1看護科の定員を70人から120人に増員。第2看護科は昭和63年度から募集停止。

## 建設の経緯

- 昭和53年4月 医学部の移転拡充に関する特別委員会発足。
- 昭和56年10月 市、医学部移転先を金沢埋立3号地に決定。  
〔3号地及び住宅地で、105,049㎡〕
- 昭和58年1月 横浜市立大学キャンパス整備基本構想を策定。
- 昭和58年3月 評議会、同基本構想を承認。
- 昭和58年4月 学長、大学整備審議会に「医学部校舎等の建設及び新附属病院の建設」を諮問。審議会内に新キャンパス整備専門委員会設置。
- 昭和58年7月 教授会、市の医学部校舎提示面積33,500㎡を承認。市建築局及び松田平田坂本設計事務所へ設計委託。
- 昭和59年12月 医学部校舎移転新築工事発注。
- 昭和60年1月 同工事起工式。
- 昭和60年6月 3号地南ブロック進出企業と共同で“ふるさとの森づくり”をめざし教職員・市民等により植樹祭挙行政。
- 昭和61年10月 建築工事竣工。
- 昭和61年11月 施設9棟の引渡しを受ける。
- 昭和62年1月 外構工事竣工。
- 昭和62年2月 浦舟キャンパスから移転完了。
- 昭和62年3月 緑化工事竣工。
- 昭和62年4月 新校舎にて研究・教育活動始まる。落成式挙行政。

# 基礎・臨床研究棟

## Medical Science Building

本学部は、基礎医学13講座・臨床医学17講座で編成されています。現在まで2,060人の卒業生を社会に送り出し、その約70パーセントが、市内・県内において医療・教育・研究の分野に従事し、活躍しています。

研究棟は、研究活動の効率化を図るため基礎研究棟と実習棟を、臨床研究棟と計画中の附属病院にそれぞれ廊下で結ばれています。さらに、2階から直接動物実験センター、ラジオアイソトープセンターへも行くことができます。棟内は、中廊下方式となっており、南側に居室、北側に研究室をふりわけ、各フロアーは8講座分のスペースです。また、研究室は軽量鉄骨壁を採用し、将来の変更にも対応しやすくなっています。このほか研究棟には、大型の実験研究機器等を備えた共同利用区画を7室設置。多分野からの研究や共同研究に対応できるようにしました。また、将来の講座増設を考慮して2講座分のスペースを確保。さらに管理部門の諸室、セミナー室なども設けました。



↑研究室



↑研究室



↑電子顕微鏡室



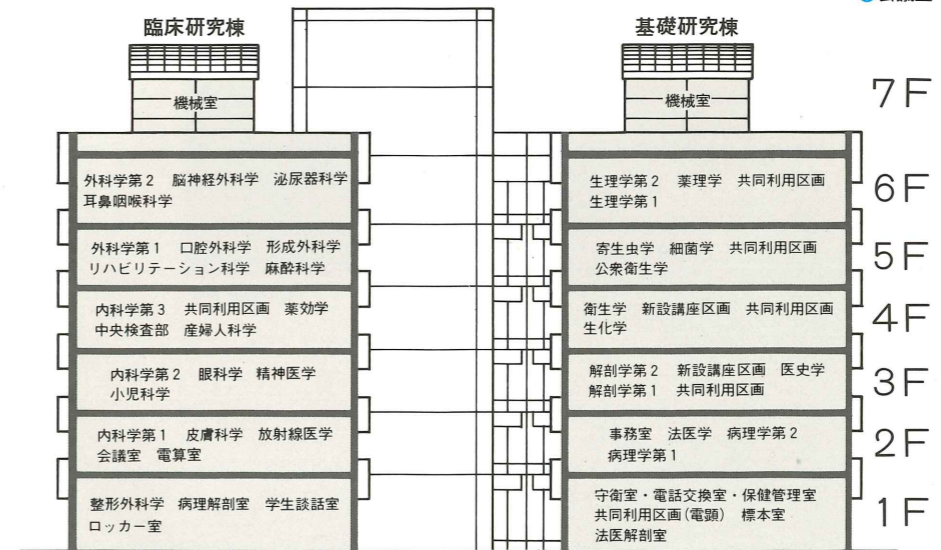
↑カンファレンス室



↑玄関ホール



↑会議室



## 実習棟

### Student Laboratory Building

学部専門課程における教育に欠かせないのが実習室です。いずれも将来の定員増を考えた十分なスペースを確保。使いやすい実習机や解剖台、教育効果を高めるAV装置や无影灯などが備えられています。

#### ●施設内容

- 1階……病理・寄生虫実習室、組織実習室、解剖実習室
- 2階……衛生・公衆衛生・細菌実習室、生化・法医学実習室、生理・薬理実習室



解剖実習室



組織実習室

## 講義棟

### Auditorium and Lecture Rooms

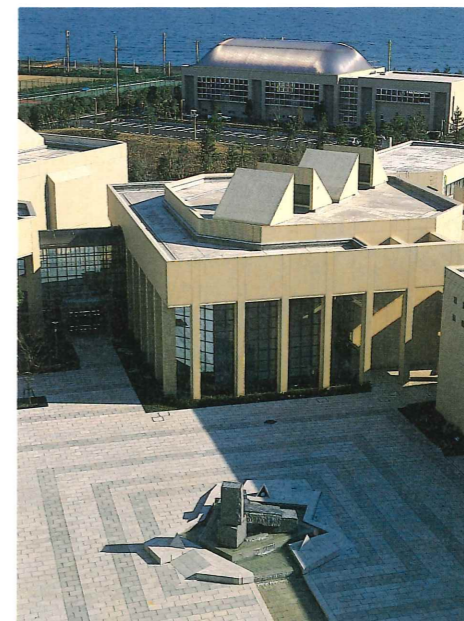
講義棟は、研究棟や実習棟、医学情報センター、福利厚生棟のいずれにも接続し、学生の勉学のために最良の設計となっています。1階に定員301名の多目的講堂、2階に定員104名の講義室2室を設けました。特に多目的講堂は吸音・反射音に留意した珧器質ブロック壁を採用。いずれの部屋も肉声で講義できるように設計しました。そのほか、16mmフィルム映写装置やビデオ装置など各種の視聴覚機器を備え、学部教育はもちろん、学術集会や医学研究会、講演会など幅広く活用することができます。



多目的講堂



講義室



中央プラザと講義棟、体育館

# 動物実験センター Laboratory Animal Facility

当センターは、国際水準の動物実験施設として建設されたもので、高い精度の実験ができる条件を備えています。

例えば、犬を主体とした外科手術室やX線テレビ装置の設置、Barrier SystemによるSPF動物飼育実験区域や感染動物実験区域の設置、さらに水棲動物室等、多目的な研究に使える飼育室や広いスペースの実験室も完備しています。もう一つの特徴は、研究者の便を考え当センターが研究棟に隣接し、研究棟2階から直接出入りすることが出来ることです。

### ●飼育可能な動物の種類

マウス・ラット・ウサギ・ハムスター・モルモット・イヌ・ジャコウネズミ・スナネズミ  
ニワトリ・ヒヨコ・魚類・ヤギ

### ●主な備品類

高圧蒸気滅菌機 (大型 3基、中型 2基、小型 4基)

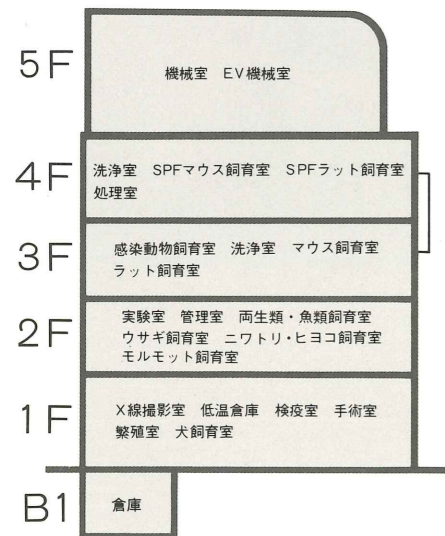
- E O Gガス滅菌機 2基
- 自動ケージ洗浄機 2基
- X線テレビ撮影装置 1台
- 滅菌水自動作成装置 1台
- 自動滅菌水充填装置 1台
- 外科手術台と附属設備 8台
- 円形水槽 1基
- 大・中・小水槽 5基
- 低温飼料保存庫 1台
- エアークリーナー 1台
- デイープフリーザー 1台
- 施設入退出コンピューター制御装置



↑ 洗浄室



↑ 飼育室



# ラジオアイソトープセンター Radioisotope Research Building

当センターは、本学部における医学・生物学の分野でのR I (ラジオアイソトープ) 研究を積極的に進める共同利用研究施設として建設されたものです。R I 研究に必要な場所と機器を研究者に提供するとともに、研究者に対する放射線障害防止の教育訓練を行います。さらに、放射線の生体に及ぼす危険度を知り、医学分野の安全な放射線利用に必要な基礎研究を行うことを目的としています。

また当センターでは、水素・炭素・リン・硫黄・ヨウ素など密封されていない34種類のR Iの保管・研究使用と、密封されたセシウム137を装着した放射線照射装置の使用が許されています。

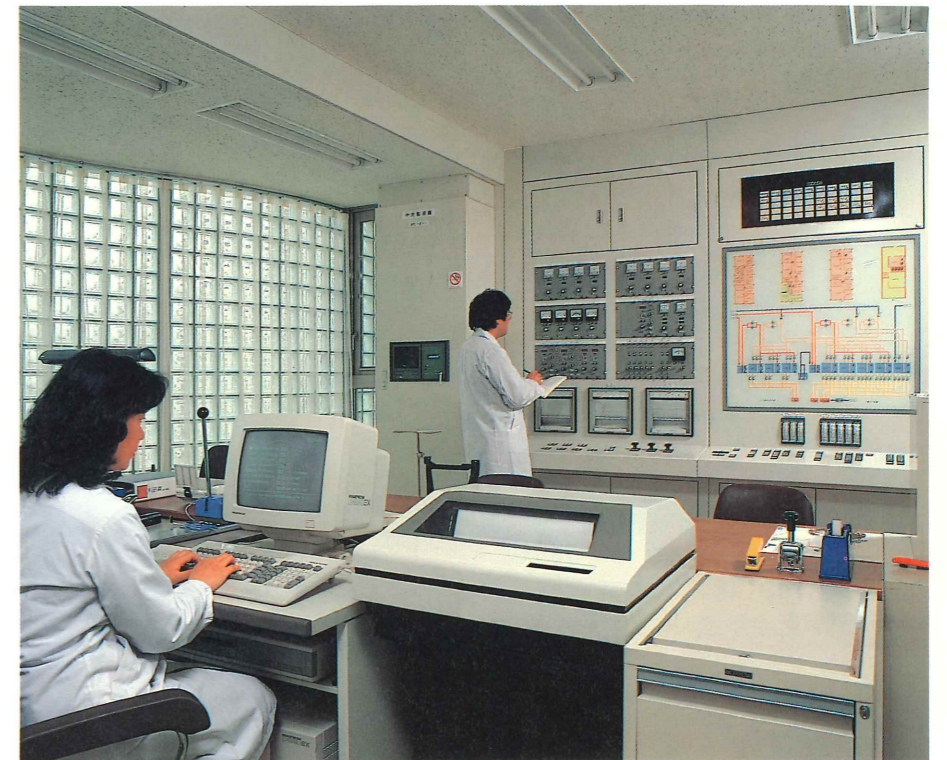
建物の屋上と地階に、それぞれR I排気処理施設とR I排水処理施設を設置。管理区域内には、動物実験施設・生化学実験施設をはじめ、医学各分野にわたる研究施設が設けられています。管理区域内には、放射線量モニター8基、排気・排水処理施設には、それぞれ排気モニター5基と排水モニター3基を備え、24時間監視体制で管理区域内外における放射線障害防止対策を図っています。

### ●主な機器

放射線測定機器 (ハンド・フット・クロスモニター、GMカウンター、シンチレーションカウンター等)

廃棄処理機器 (動物ミイラ化装置、有機溶剤焼却装置等)

放射線障害防御機器、R I 保管機器  
動物実験・細胞実験等の各種機器



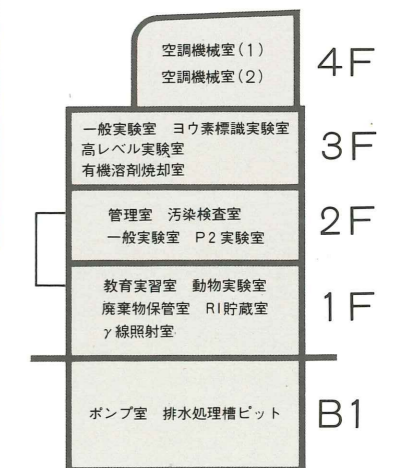
↑ 管理室



↑ R I 汚染検査室



↑ 排気処理施設



## 医学情報センター

## Medical Library

当センターは、医学部や地域での教育・研究・診療活動を情報提供の面から支援する図書館です。

このため、次の点に配慮しました。

- ①利用者が、図書や雑誌を自由に手に取ってみられる全面接架方式の採用。
- ②キャンパス内の精神的やすらぎの場として、勉学と研究に集中できる居住性のよい、ゆとりある空間設計と充実した諸設備。
- ③近代的な情報提供機関として各種の情報機器の設置。とくに視聴覚機器と視聴覚資料の整備。
- ④将来の蔵書増加に建物内で対応できる書庫の設計。

〈蔵書数〉 図書 86,249冊、雑誌 2,728種  
 〈蔵書収容力〉 141,000冊  
 〈閲覧座席数〉 173席



◀ 閲覧室



◀ 中庭



◀ カウンター前のホール

## 福利厚生棟

## Cafeteria

キャンパス周辺に食堂・商店等がほとんどないため、教職員や学生が利用しやすいキャンパスのほぼ中央部に設置しました。

この棟には、書籍等の売店・食堂・学生委員会室等があります。食堂は、なごやかなカフェテラス方式を採用、喫茶室も独立させて憩いのスペースになっています。食堂は高い傾斜屋根形の天井で、広さを確保し、開放感あふれた室内空間を生みだしています。また、特徴ある照明デザインで憩いの場を演出しました。

- 施設内容  
 食堂 (120席)、喫茶室 (20席)、厨房、売店、学生委員会室等



◀ 食堂

## Gymnasium and Student Club Activity Rooms

## 体育館・サークル棟

これらの棟は、キャンパスの南端、海岸近くであり、野球場を中心とした多目的グラウンドやテニスコートに隣接、学生利用施設が集中したロケーションを考えました。

### 〈体育館〉

アリーナの屋根の形は、球技に支障のない大空間を得るため円形ドームの設計になっています。

- 施設内容  
 アリーナ (バスケット1面)、武道場 (72畳)、合宿所 (20畳、8畳)、シャワー室等

### 〈サークル棟〉

体育館とグラウンドにはさまれ、各施設への動線も短い利用効率のよい配置になっています。

- 施設内容  
 文化系サークル室 (10室)、体育系サークル室 (20室)



◀ アリーナ



◀ サークル棟

# エネルギーセンター Power Control Center

当センターは、医学部キャンパスで使用する電気・ガス・冷温水・蒸気・水等のエネルギーの総合供給施設です。当施設ほど大規模になると、維持管理の容易さ、設備の安全性、信頼性の向上、省力化の面から独立した施設が合理的です。

### ●施設の特徴

- 将来、病院エネルギーセンターを建設した時、一体化した施設となるように配慮しました。
- 省エネルギーのため熱源機器の台数を増やし、効率の良い運転が可能です。
- コンピューターと光ファイバーケーブルによる中央監視設備により、病院開設時にもキャンパス全体の集中監視ができます。



中央監視室



全景

### 建設概要

- 工事名称 横浜市立大学医学部校舎移転新築工事
- 敷地面積 67,174m<sup>2</sup>
- 建築面積 11,533m<sup>2</sup>
- 延床面積 34,874m<sup>2</sup>
- 工期 I期(S.59.12~S.61.10)、II期(S.60.10~S.61.10)  
外構(S.60.10~S.62.1)、緑化(S.60.10~S.62.3)
- 設計・監理 横浜市建築局、緑政局  
松田平田坂本設計事務所  
愛植物設計事務所
- 事業費 〈用地費〉45億円  
〈工事費〉156億円  
〈初度調分費等〉21億円  
〈合計〉約222億円

### ●構造、階数、床面積

#### 第I期工業

棟名	構造	階数	床面積(m <sup>2</sup> )
研究棟	鉄骨鉄筋コンクリート造	7F	19,340
教育棟 (講義棟・実習棟)	鉄筋コンクリート造	2F	4,949
医学情報センター	鉄筋コンクリート造	2F	1,819
ラジオイントーブセンター	鉄筋コンクリート造	地下1F 地上4F	1,650
動物実験センター	鉄筋コンクリート造	地下1F 地上5F	2,974

#### 第II期工事

棟名	構造	階数	床面積(m <sup>2</sup> )
福利厚生棟	鉄筋コンクリート造	1F	618
体育館	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	2F	1,395
サークル棟	鉄筋コンクリート造	2F	530
エネルギーセンター	鉄筋コンクリート造	4F	1,599



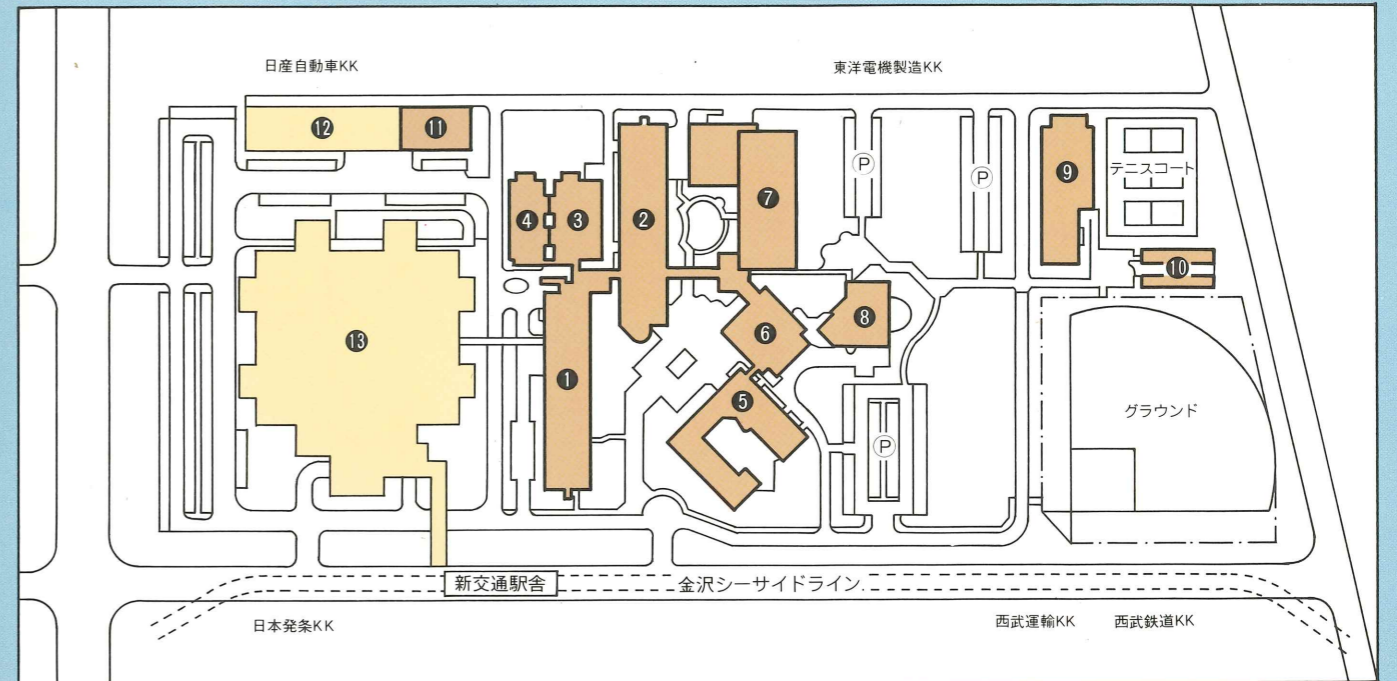
● 玄関ホールにある竣工板



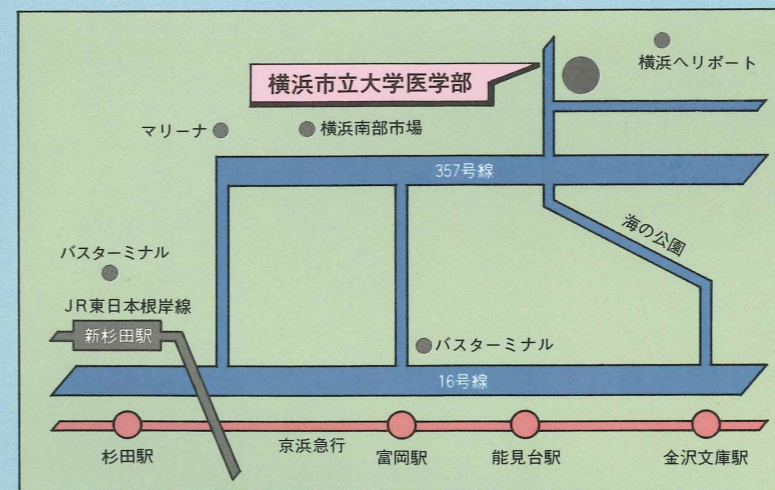
● 正門にある校名板

(いずれも細郷市長の筆による)

### 配置図



### 案内図



### ●交通機関

- 1) JR東日本「新杉田駅」より  
金沢工業団地行バス「金沢工業団地」下車徒歩5分。
- 2) 京浜急行「富岡駅」より  
金沢工業団地行バス「金沢工業団地」下車徒歩5分。
- 3) 京浜急行「金沢文庫駅」より  
金沢工業団地行バス「福浦海岸」下車徒歩3分。

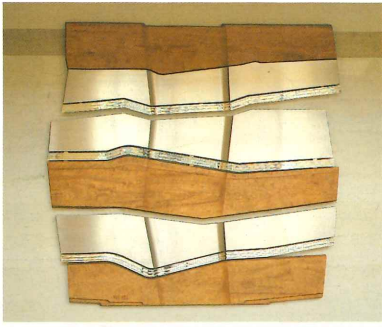
- ①臨床研究棟
- ②基礎研究棟
- ③動物実験センター
- ④ラジオイントーブセンター
- ⑤医学情報センター
- ⑥講義棟
- ⑦実習棟
- ⑧福利厚生棟
- ⑨体育館
- ⑩サークル棟
- ⑪エネルギーセンター
- ⑫エネルギーセンター(将来計画)
- ⑬附属病院(将来計画)



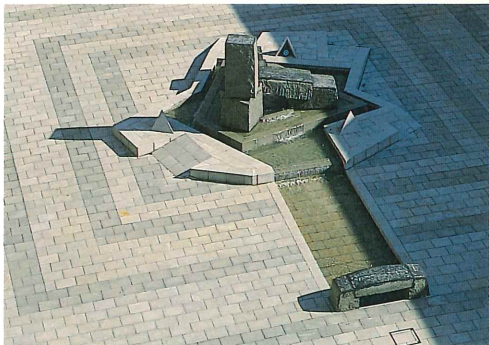
①



②



③



④



⑤

横浜市立大学医学部

横浜市金沢区福浦三丁目 9 番地 / TEL 045-787-2511~3

- ①「炎」 中嶋一雄
- ②「存在一流れ」 中嶋一雄
- ③「宇宙」 栄 利秋
- ④「泉」 赤塚昌俊
- ⑤「ヘボン氏肖像画とヘボン氏による手術風景」  
(原画提供：堀智子、杉立義一)